



ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com>

E-mail info@meinan-rotary.com

WEEKLY REPORT

■承認/1991年3月8日

■例会日/火曜日・PM6:30

■例会場/名古屋マリオットアソシアホテル

■事務局/〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号

名古屋マリオットアソシアホテル2202号

TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

■会長/川辺 清次

■幹事/鈴木 清詞

■会報委員長/田中 省三



2008-2009 RI会長
リー・ドン・カン氏(韓国)

第824回

2008年7月15日(火) 晴 第3回

～ロータリーを考える月間～

斉唱 それでこそロータリー
出席 会員 69名 (出席率算入人数 64名)
出席 44名 出席率 68.75%
前々回補填率 95.31% (7月1日分)
ゲスト 米山奨学生 チャン・ティ・ハー・ニーさん
ビジター 名古屋栄RC 日置 教康さん 他1名

◆会長あいさつ◆

会長 川辺 清次さん

6月いっぱいまで辞められた森昭勝さんから、書面でごあいさつが来ております。
「私こと、名古屋名南RC創立以来、「明るく楽しく」をモットーに、大勢の皆様にお付き合いいただき、大変うれしく、また誇りに思っております。思えば毎週の例会、楽しく出席するとともに、17年半、皆様からの素晴らしい笑顔と優しい思いやりで取り組んでまいりました。数々の事業活動、家族旅行、忘年会等、楽しい時を過ごさせていただきました。つきましては、この半年間休会しておりましたが、いまだ本調子でなく、体調が戻らず、残念ながら名南RC会員として活動ができず、実に失格であります。よくよく考えた末に、6月30日をもって退会することとさせていただきます。まことに申し訳なく、深く深くお詫び申し上げます。これから素晴らしい名南RCがより大きな輪となり、明るく楽しいクラブであり続け、ますますご発展されるように心から願っております。」



今年度はガバナーが「ロータリーを考える月間」を7月に設定されました。この10年間で、日本の、当地区を含めた34地区の会員数が25%減っています。世界の趨勢は微増になっているんですね。日本だけが減っている。これは経済状況の変動以外に、何かロータリーに内在する原因があるに違いありません。日本人はロータリーと仕事を連動させ過ぎているのではないかと等々、いくつか思い当たる事がありますが、その一つに、ロータリアンがもうひとつ積極的にロータリーの活動をしてこなかったことがあると思います。
片山主水ガバナーからは、「自分はロータリーに何を求めているか」、「ロータリーは今何をなすべきか」、「自分は今何をなすべきか」と自問していただきたいというメッセージを、会長、幹事宛にいただいております。

わがクラブも会員減少の問題を抱えておりますので、

8月の「会員増強月間」へ向けて、皆様、どうかもう一度ロータリーを楽しむために何が必要かお考えいただきたいと思います。

◆幹事報告◆

幹事 鈴木 清詞さん

1. 事務局の山田さんが、妊娠に伴い病院に通うため、今週から、木曜、金曜日の午前中お休みします。電話は転送でつながるようにしておくことですので、そのときは午後再度連絡していただくようお願いいたします。

◆ニコボックス◆

*伊藤さん、平沼さん会員卓話期待してます!

大隅 紀郎さん	三浦 隆さん	堀田 光江さん
朝比美和子さん	坂田 信子さん	大橋さなえさん
武藤 正行さん	田中 省三さん	杉山 隆秀さん
鈴木 清詞さん	白藤 憲雄さん	川村 繁生さん
浅井 浩さん	新原 尚さん	中村 勝さん
坂本 晃さん	森田敏二三さん	柴田 照子さん
山本 誠一さん	犬飼りさ枝さん	山崎 淳さん
中西 芳子さん	東山 直史さん	水谷 誠さん
伊藤 博昭さん	長尾 浅吉さん	加藤 英敏さん
黒田 康正さん	久米 伸治さん	林 正人さん

*伊藤さん、平沼さん、本日の卓話よろしくお願い致します。

*今日、卓話をさせていただきます。伊藤 圭一さん

*以前より恐怖に思っていました卓話がとうとう来てしまいました。拙い話ですがお聞き下さい。

平沼 里子さん

*中日ドラゴンズ、本日デーゲームで7対4で巨人に勝ちました。山本(昌)197勝目です。中日創立以来4500勝です。来週は皆さん優勝目指して力一杯応援しましょう。

川辺 清次さん
本日合計 38,000円 累計 156,000円

◆委員会報告◆

●親睦活動・家族委員会 委員長 久米 伸治さん

本日それぞれの机の上に「名南RC秋の家族会のご案内」を置かせていただきました。山梨県の鐘山温泉の旅行を企画しております。250万坪の広大なお庭を有す

第826回例会(7月29日)のご案内

新年度クラブ総会(前年度の決算、新年度予算)

る、素晴らしい温泉だそうです。10月3日、4日の1泊2日を予定しております。一人約5万円で、お子さんは別になると思います。8月5日までに、参加人数や、お部屋のご希望をお申し出下さい。

来週火曜日は、納涼例会をナゴヤドームで行います。レストランシートと、VIPルームに分かれております。お茶と割子はついていますが、飲み物はお実費ということでもよろしく願います。

●出席委員会 前年度委員長 中村 勝さん

先般、100%出席ということで皆さんに記念品をお渡ししましたが、一人、杉山さんが残っておりますので、会長からお渡しいただきます。

◆奨学金授与◆

米山奨学生のチャン・ティ・ハー・ニーさんに7月分の奨学金をお渡ししました。

◆会員卓話◆

●伊藤 圭一さん

『蟹工船』という文庫本が最近ものすごく売れておりますが、この本は80年前に、小林多喜二という作家が書いた小説で、日本では初めてのプロレタリア文学作品と言われております。小林多喜二は共産党員でして、戦前の、貧乏で、非常に厳しい環境の中で働いている皆さんに同情して、もっと国をよくしなければいかんという発想からこの小説を書いたわけです。



カムチャッカのほうでカニをとって船の中で缶詰にするのが蟹工船です。資本家は船を買って、缶詰の設備を載せて蟹工船にして、安い労働者を300人ぐらい寄せ集めて、作った缶詰はアメリカ、イギリス、ヨーロッパ各国へ輸出しました。過酷な労働を強いられた労働者はストライキを起しましたが、帝国海軍の駆逐艦が蟹工船へ来て、ストライキの指導者たちを全員拉致して、ストライキは不成功に終わります。ただ、その日は不成功であったけれども、労働者はみな団結することが大切である、これからプロレタリアの革命が進んでいくんだと、小林多喜二はこの小説の中で希望を持って言っています。小林多喜二は、1933年に29歳で警察に捕まり、拷問を受けて亡くなりました。

私がこの小説を読んだのは大学の2年生、20歳のときでした。この小説を契機に、私は共産党にかぶれ、仲間を集めて勉強会をして、ひとかどの共産党シンパになったわけです。

ある日、我々学生と労働者が団体を組んでデモをやっておりましたら、警察に捕まり南署へ連れていかれました。そのとき私の父が迎えに来まして「ばか、おまえはプロレタリアじゃないぞ、資本家なんだぞ」としかられたのですが、あれはこたえましたね。当時は、資本家が蟹工船でしっかりもうけて、労働者が搾取されておるといことで、若かった私は正義感に燃えたのです。

おやじは88歳で、10年前に亡くなりましたが非常に社会奉仕に熱心でした。ロータリーは南RCにおりまして、東南RCができたときにチャーターメンバーとして東南RCに入りました。社会奉仕はすべて私がやるから、おまえはお金をもうけて税金を払って社会奉仕しなさいというのがおやじの口癖でした。しかし、東南RC30周年の記念に名南RCをつくることになり、私も名南RCへ入

ることになったわけです。そのおかげで、真剣に奉仕をすることの義務とよろこびを知ることができました。

私が会長をした年はRI会長賞が頂けた年です。RI会長賞の中には、国際奉仕、社会奉仕の規定があります。名南RCでは国際奉仕を行っていませんでしたので、私はRI会長賞をもらうため、どのような国際奉仕をするか悩んでおりました。たまたま新聞に、私学協議会が主催しているアフリカへ缶詰を送ろうという運動が掲載されておりましたので行ってみると、缶詰があまりにたくさん集まってしまい、それをアフリカへ送る運賃がないと言うのです。それで、運賃を寄付させていただいて、国際奉仕をした思い出がございます。

最後に、私はロータリー以外の国際奉仕として、ユニセフとフォスター・プランというのをやっております。年間6万円を対象になる子どもに送ると、その子を通じて小学校の建設など、教育に役立てられます。この子に手紙を書きますと、村はこういうふうになりました、皆さん喜んでおりますという返事がくるわけです。同じ奉仕でも、反響があり、対象があると非常に張り合いがあるものです。もし、やりたいかたがございましたら、私が申込書を持っておりますので、お申し出いただければ一緒にやりたいと思っております。

●平沼 里子さん（インタビュー形式）

前社長のご主人様は突然の病死で、平沼さんは経営者夫人として、一家の主婦として、社員と家族を抱え、大変な局面に立たれたと思っておりますが、そのときはどういうことがございましたか。

「心筋梗塞で突然亡くなったので、まずは葬儀のことしか考えておりませんでした。それで、お通夜のときに私ども夫婦がとても尊敬しているかたから、告別式が終わったら、即会社に行って代表を私に変更するようにと言われ、告別式の後、私が代表になったわけです。」



会社存続を選択されたとき、ご主人の名刺ホルダーの中から1,000枚の名刺を選んで、その中の600人のかたに1年がかりでお会いになったとお聞きました。

「必死でしたね。その結果、今現在はその中の3社のかたとお付き合いをいただいております。仕事というのは会社だけでつながっているものではなくて、人とのつながりが強いと思うんです。私に替わってからは、素人ですし、こんな社長で大丈夫なのかという不安があったと思いますが、日参しながら、こつこつとお得意さんを確保しております。」

ところで、平沼さんは女性としてはいつも地味なファッションが多いですが、お仕事柄ですか？

「もともとネクラなタイプですので、地味なお洋服のほうが落ち着けて、自分らしくていいと思っております。」

平沼さんは夜もご活躍されていて、実にいろいろなジャンルのお店を知っていらっしゃいます。どうしてあんなたくさんのお店を知ってらっしゃるんですか。

「主人はよそでおいしいものをいただくと、必ず私を連れていってくれてたんですね。二人ともお酒が好きなものですから、出歩くことが多かったということだと思います。」

建設会社はどちらかという女性よりも男性の世界ですが、その中で平沼さんの、女性ならではの営業活動はどのようなことがございましたか？

「上のかたよりも、現場でお世話になったかたがたのお誕生日などに、ささやかなものをお持ちして、お食事にご一緒するということが多いです。」

最後に平沼さんの趣味、あるいは10年後どうされたいか、夢をお聞かせいただけますでしょうか。

「草花が好きですので、原村の建物にこもって、周りの草花をちょっといただいて、部屋中に入れて、それを眺めて、安らかに過ごせたらいいなと思っております。」